



【2017-06-28】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『東京港野鳥公園の散歩』

長野修二

東京港野鳥公園の散歩

大都会東京にあって、平日は人が少なく、自然があり、しかも都心から近く多くの鳥たちが憩う「[東京港野鳥公園](#)」があります。

散歩がてら鳥を見にいけますが、平日であればゆったりと公園の池のまわりを散策しながら季節ごとに鳥たちを眺めることができます。

もっとも、一年中留まる鳥もいますが、季節ごとに中継地として、あるいは越冬地として、この公園にやってくる鳥たちもいます。

ちなみに、平日はいろいろな世代の人達が訪れていますが、とくに若いカップルが双眼鏡を携えて仲良く散歩している光景は、とても微笑ましいものではないでしょうか。

まるで鳥たちのカップルのように羨ましいかぎりです。

久しぶりに訪れてみると「ネイチャーセンター」が新しくなり、従来の施設に比べると各段に広いスペースが確保されており、鳥たちの観察がしやすくなっていました。

双眼鏡を携えていれば、鳥だけでなく、羽田空港を離着陸する飛行機をみることができます。

野鳥公園のネイチャーセンターを中心に観察することになりますが、さらに小さな観察小屋が池のまじかに配置されていますので、そこまでいく間木々などを楽しみながらバードウォッチングができます。

車でアクセスする場合の問題点は入口がわかりにくいことでしょうか。

大田市場内を通る場合もありますからよく調べてからいったほうがよいでしょう。

カーナビで入ろうとすると、少々混乱することになります。

一旦、太田市場内に入り、警備の方に入口を確認していくほうが無難かかもわかりません。

駐車場へたどり着けば、そこから管理事務所まではすぐの道のりです。

管理事務所の前には芝生広場があり天気がよければお弁当なども広げられるでしょう。

[園内地図](#)

また、簡易な建物の中にわずかですがテーブルやイスがありますので、こちらで食べたりすることもできます。



芝生広場を抜けると、「いそしぎ橋」を渡ることになりますが、この橋の下は、JR貨物の線路が東京貨物ターミナルから川崎方面へ結ばれています。





太田市場の土地には、もともと鳥たちが住んでいたようで鳥たちのエリアを残すように市場が開場されています。

このような経緯から野鳥公園の入口が大田市場と結びついているのかもわかりません。

ネットで少し調べてみると、自然保護を訴える地元住民などが長期間熱心に働きかけをした結果、北西の一角、わずかに3万m²くらいの土地が「野鳥公園」として昭和53年（1978年）に開園したそうです。

それでも多くの鳥たちにとって大切な憩いの場になっているようです。

「いそしぎ橋」を渡り道に沿って歩いていけば、途中で二手に分かれますが、どちらを通ってもネイチャーセンターへいくようになっています。ネイチャーセンターから観察できるのは「潮入りの池」で淡水と海水がまじる池です。

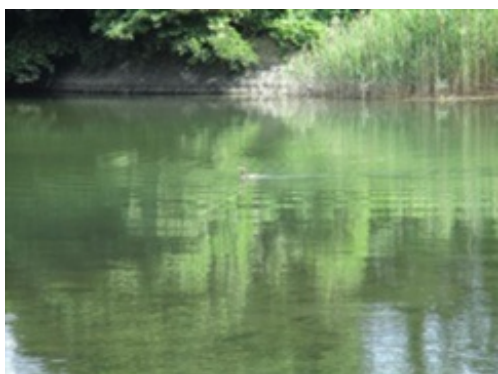
この日は、カワウやアオサギ、オーストラリア沿岸から渡ってくるといわれる「[コアジサシ](#)」が飛び回っては垂直に水に飛び込むシーンがよくみられました。





ネイチャセンターから奥へいけば「2号観察小屋」、「3号観察小屋」

へ続いており、ネイチャーセンターよりさらにまじかに鳥たちを観察することができます。



帰りに「東淡水池」を訪れましたが、こちらではカルガモ、ダイサギ、

コサギ、アオサギ、カイツブリ、図鑑で調べてもわかからない鳥が一羽
いました。

カイツブリは、池の真ん中に巣をつくり卵を温めているところでしたが、
気に入らないのか、巣のまわりの枝をなおす仕草はなかなかかわいいも
のです。





大都会の中で2時間から3時間あればゆっくりと鳥たちをみながら散歩ができるところでしょうか。

この日は、西淡水池をみることができませんでしたので、こちらも観察すれば一日楽しむことができますでしょう。

東京のよいところは、身近な場所に多くの公園があることでしょうか。少し調べてみると、東京都の公園数と公園面積は全国一だそうです。休日や平日の休みにぶらりと歩くだけで、必ずなんらかの寺社仏閣と公園を見ることになります。

公園数のデータは、都内のいろいろなところを散策した感じと同じです。ひとたび公園を後にすれば、コンクリートジャングルのような殺伐とした風景が続きますが、この公園の鳥たちはいたってのんびりと大都会東京のオアシスを楽しんでいます。

もちろん、人間も楽しむことができます。